

苫小牧市スポーツ推進計画【概要版】 (改訂版) (案)

活みなぎる「スポーツ都市」とまこまい

～スポーツを愛し、市民が活気あふれるまち～



©2011 苫小牧市

(2016)

(2025)

平成28年度 ~ 令和7年度

改定 令和3年度

苫小牧市

<第1章> 計画の見直しにあたって

1 計画見直しの趣旨

平成23年8月、国はスポーツ振興法にかわってスポーツ基本法を施行し、スポーツに関する国や地方自治体の責務、スポーツ団体の努力等を明らかにしています。平成24年3月には、「スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ政策の具体的な方向性を示しました。

本市においても、より効率的・効果的にスポーツ推進を行うため、平成28年9月に「苫小牧市スポーツ推進計画」を策定しております。

スポーツ推進計画においては、計画の進捗状況、社会経済情勢、国の政策動向等の変化に対応するために、原則として計画の中間年に見直しを行うこととしており、令和3年6月に統計数値や数値目標について見直しを行います。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画として策定するもので、国の「スポーツ基本計画」を参酌するとともに、本市の上位計画である「苫小牧市総合計画」の基本構想及び第5次基本計画との整合を図りながら、個別計画として本市のスポーツ推進をより具体化するものです。

3 計画の期間

平成28年度（2016年度）から令和7年度（2025年度）までの10年間

※令和3年度に中間見直し

<第2章> スポーツを取り巻く環境と課題

本計画の改定にあたり、令和2年4月に16歳以上の市民を対象に「苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査」（以下「実態調査」という。）を実施しました。

また、市内福祉団体の会員を対象に「障害のある方の運動・スポーツ活動実態調査」（以下「障がいのある方の調査」という。）を実施しました。

1 本市のスポーツを取り巻く環境

本市は、現在人口で道内4位の都市として成長を続けていますが、少子高齢化の進展やライフスタイル等の変化により、本市のスポーツ人口は減少傾向にあります。

スポーツ施設においては、既存施設の多くが建設からの年数が経過し、老朽化が目立ち、施設の改修や補修をはじめ器具の更新等も急務の状況にあります。

本市の年齢別（3区分）人口、平均年齢の推移（苫小牧市の人口動態（令和3年）より）

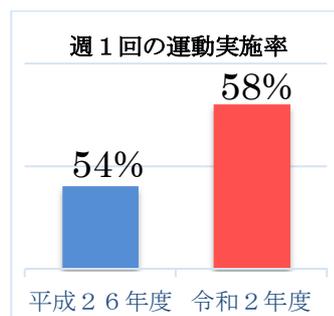
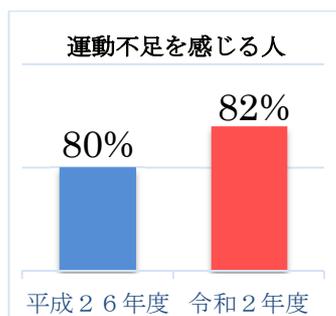
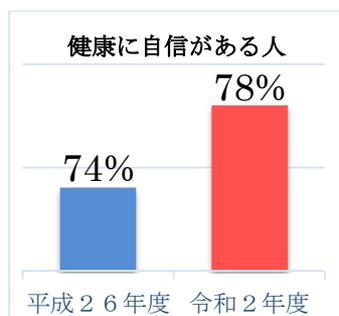
年次	15歳未満	15～64歳	65歳以上	平均年齢	合計
H28（2016）	22,476	104,650	46,009	45.95	173,135
H29（2017）	22,108	102,855	47,410	46.30	172,373
H30（2018）	21,731	101,477	48,603	46.65	171,811
R1（2019）	21,249	100,628	49,365	47.00	171,242
R2（2020）					

2 本市の現状と課題

（1）健康と体力の現状

●健康・体力・運動の現状

週1回以上のスポーツ実施率は58%となっており、国の実施率54%を上回っているものの、8割の市民は普段から運動不足を感じています。



●子どものスポーツへの関心

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、半数以上が「スポーツが好き」、「スポーツが大切」と答えており、全国・全道平均と比較して高くなっています。

一方で中学2年生よりも小学5年生の方が数値が良く、年齢が上がるごとにスポーツを楽しめていない環境になっているといえます。

スポーツが好きな児童生徒の割合（苫小牧市教育委員会より）

《小学校5年生》

	男 子			女 子		
	苫小牧市	全 国	全 道	苫小牧市	全 国	全 道
スポーツが好き	74%	71%	74%	62%	56%	59%
スポーツが大切	78%	71%	76%	76%	63%	70%
運動部・スポーツクラブ以外で運動することがある	84%	78%	81%	82%	75%	80%

《中学校2年生》

	男 子			女 子		
	苫小牧市	全 国	全 道	苫小牧市	全 国	全 道
スポーツが好き	68%	63%	68%	45%	47%	48%
スポーツが大切	70%	69%	73%	57%	58%	59%
運動部・スポーツクラブ以外で運動することがある	73%	68%	72%	60%	54%	59%

(2) スポーツを「する人」の現状

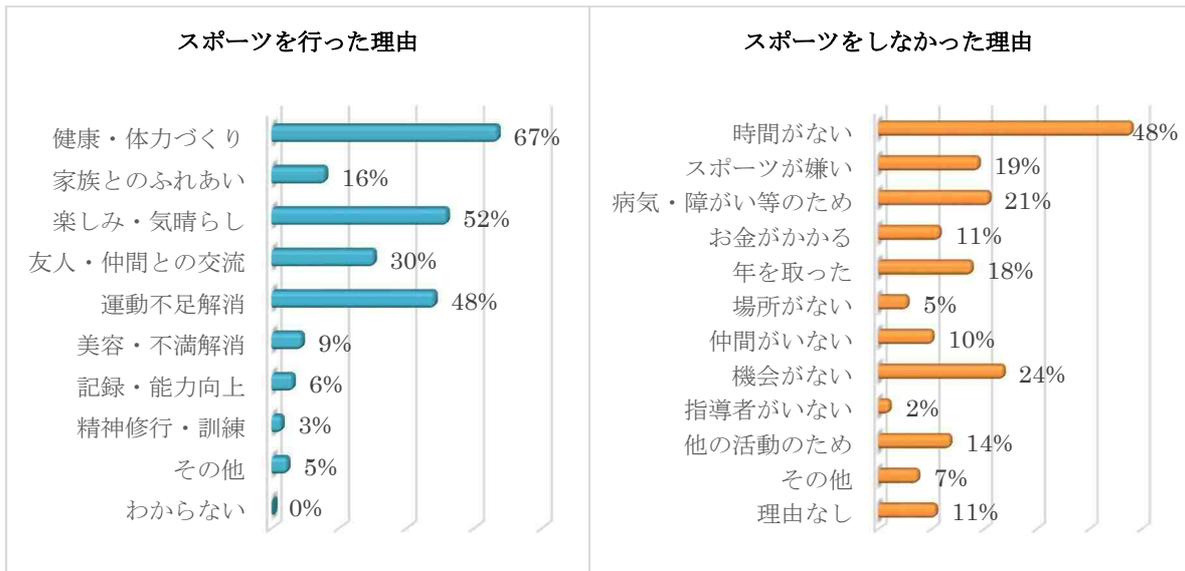
●運動やスポーツを行った種目

実施種目別で見ると身近な場所で気軽行える種目の実施が高い状況にあります。

運動やスポーツを行った理由では、健康のためや余暇を楽しむ一つの 카테고리としてスポーツを行っていることがうかがえます。

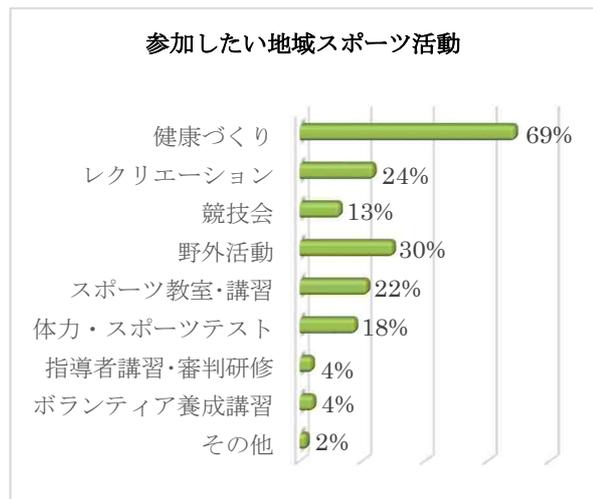
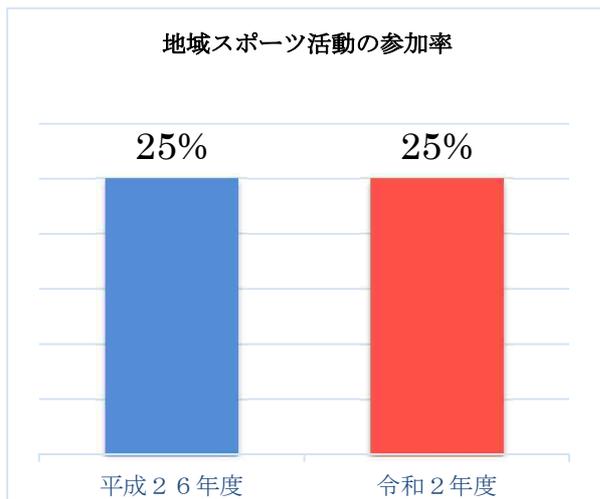
1年以内に行った運動・スポーツ（上位3種目）

平成26年度			令和2年度		
第1位	ウォーキング・散歩	57%	第1位	ウォーキング・散歩	64%
第2位	トレーニング	18%	第2位	トレーニング	24%
第3位	パークゴルフ ゲートボール	17%	第3位	体操	21%



●地域の運動・スポーツ活動

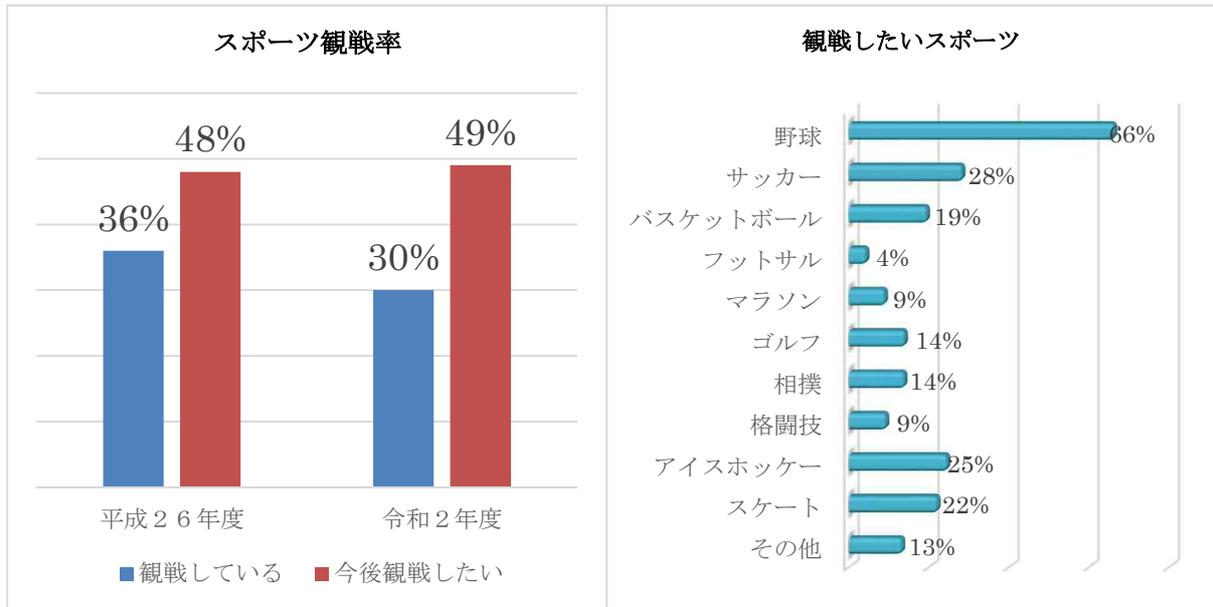
地域スポーツ活動の参加率は25%となっており、低いことが課題となっています。地域住民のニーズに合った参加しやすい活動を推進する必要があります。



(3) スポーツを「観る人」の現状

スポーツ観戦率は30%ですが、「機会があればしてみたい」が49%となっており、8割を超える人がスポーツ観戦に興味・関心を持っていることがうかがえます。

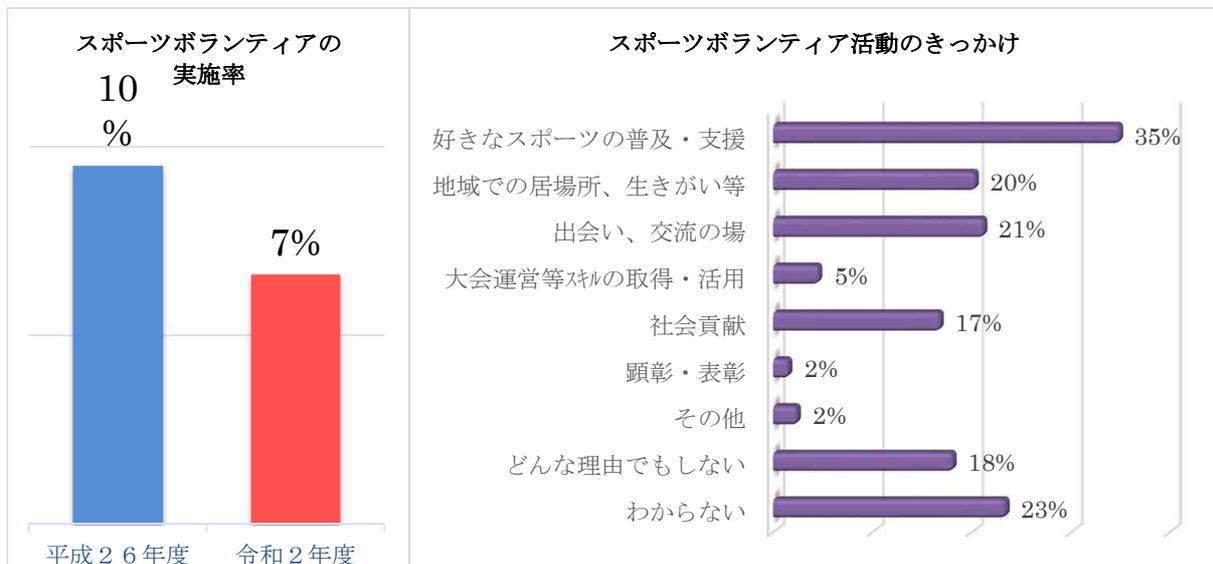
観戦希望の高いスポーツを誘致し、観戦に興味がある層を取り込むことが重要です。



(4) スポーツを「支える人」の現状

スポーツに関するボランティアの実施率は1割以下となっており、低い結果となっています。

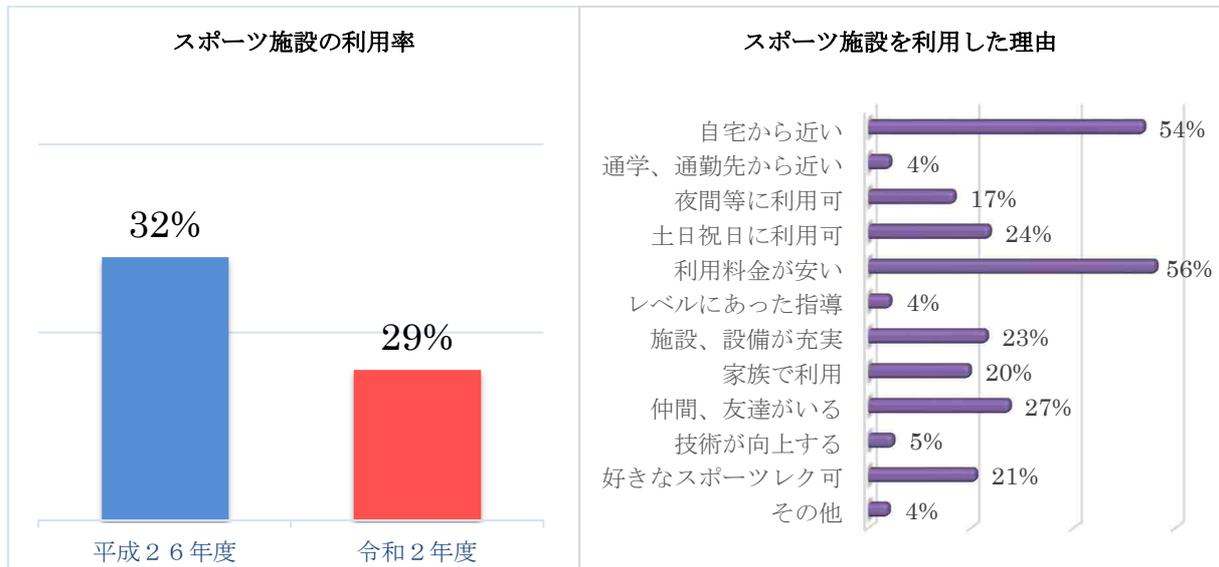
ボランティア活動の意義や内容をわかりやすく伝えることが必要です。



(5) スポーツ施設の現状

スポーツ施設の利用率は21%になっており、「利用料金が安い」、「自宅から近い」ことを理由とした利用が多い結果となっています。

多くの施設が老朽化も進み、計画的に改修や修繕を実施していく必要があります。

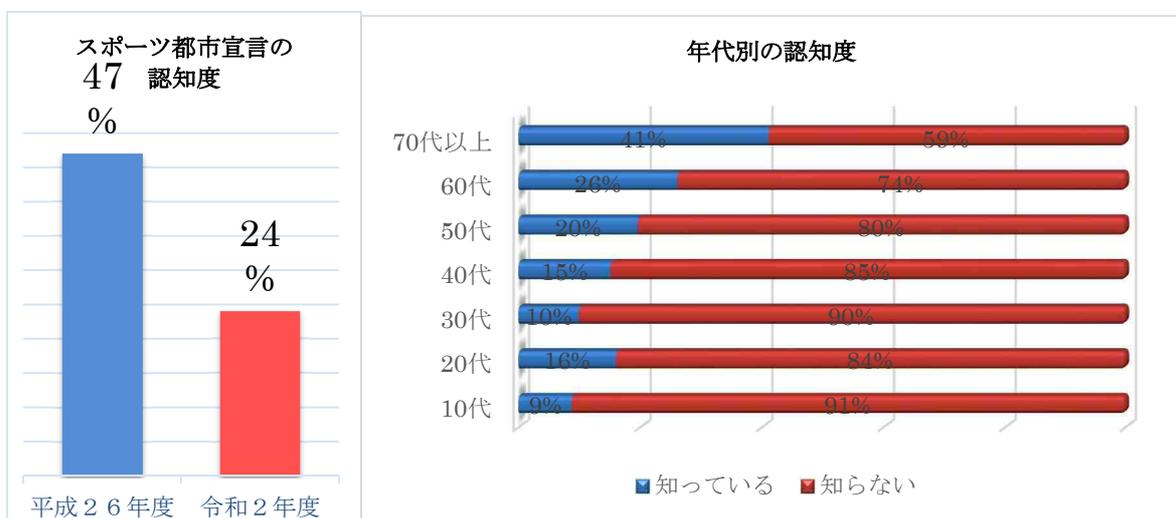


(6) スポーツ都市宣言・氷都とまこまい

●スポーツ都市宣言の認知度

本市が全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行ったことを「知っている」と回答した人は38%という結果が出ています。

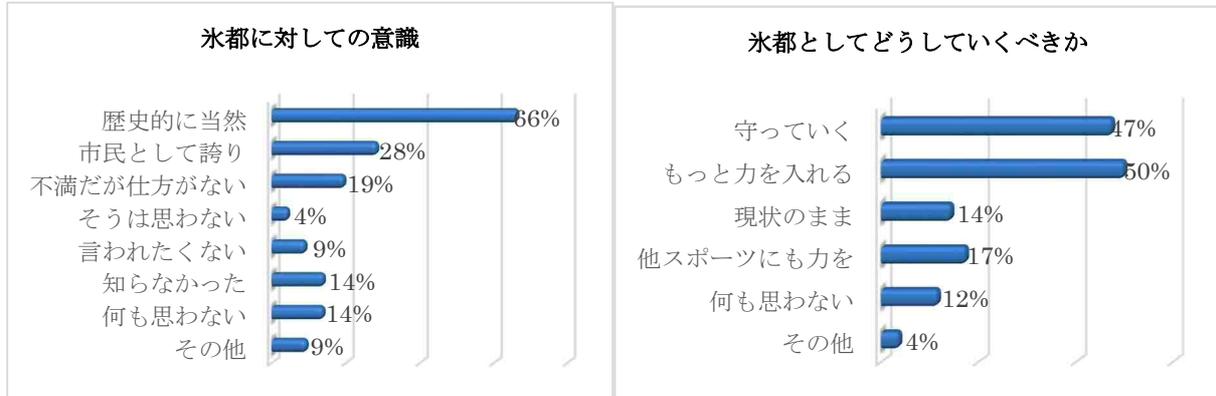
特に20歳代から50歳代で「知っている」と答えた人は20%を下回っており、認知度が低い結果となっています。



●氷都とまこまいの認知度

本市が「スケートのまち」や「アイスホッケータウン」と言われていることに対して、多くの市民は「歴史的に見て当然だと思う」、「市民として誇りに思う」と回答しています。

今後についても氷上スポーツについて市民に幅広く情報発信や活動機会の拡充等を行い支援していくことが必要であると考えます。

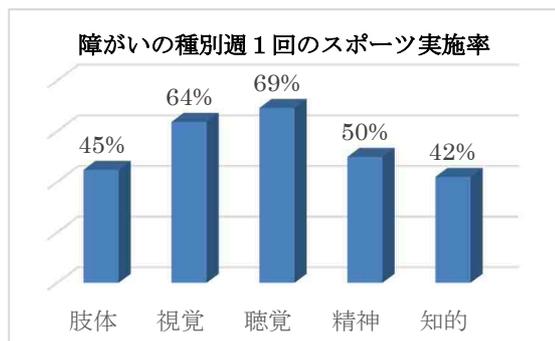
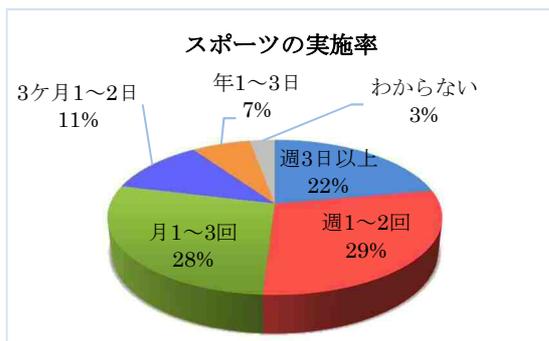


(7) 障害のある人のスポーツの現状

●運動の現状

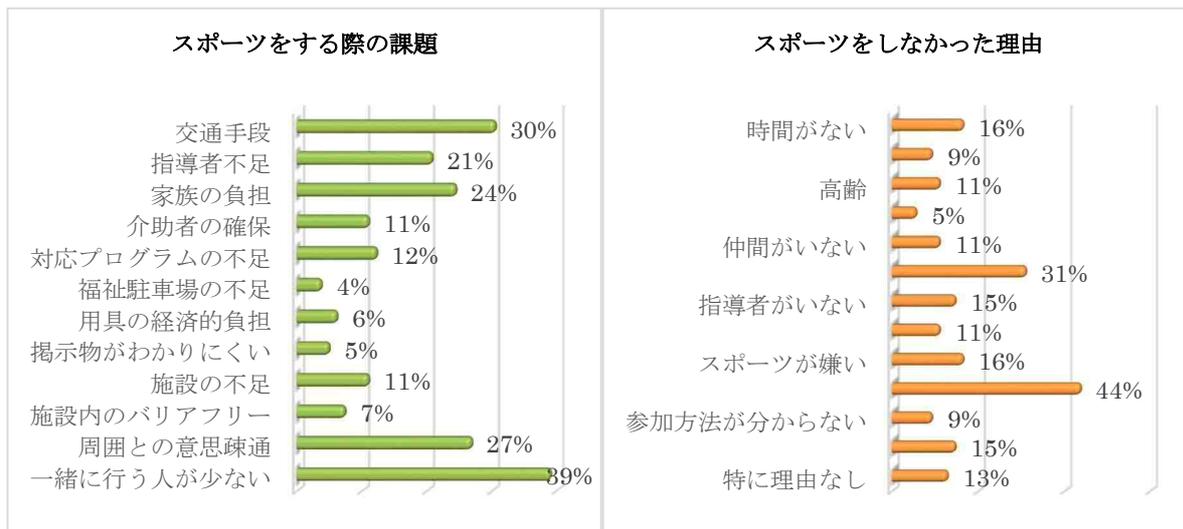
週1回以上のスポーツ実施率は51%となっており、市民全体の実施率58%と比較しても大きく変わらない現状にあります。

スポーツを実施する際の課題については、障がいの特性に応じて適切に対応できる人材の確保、施設までの移動手段の確保が求められています。



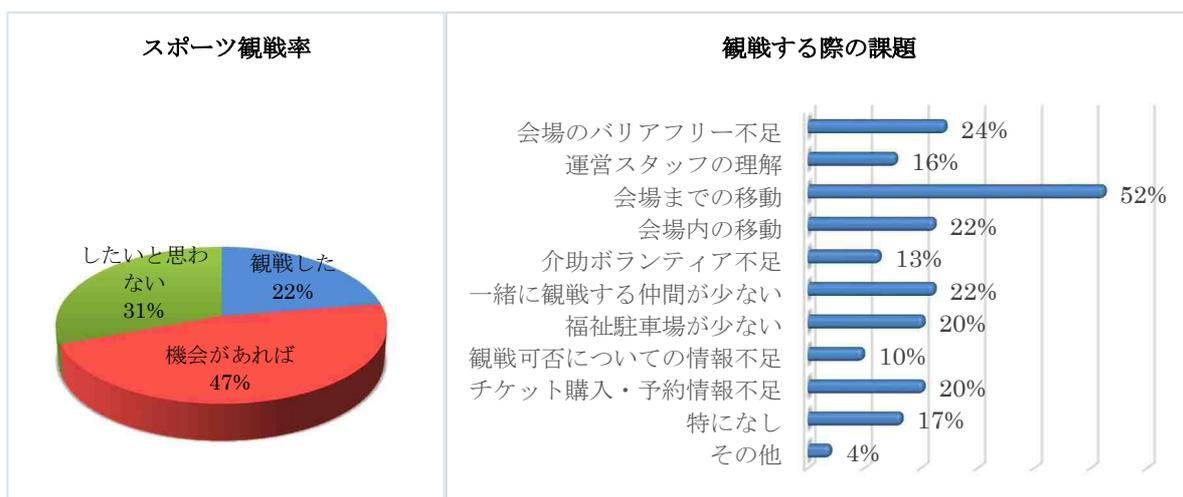
1年以内に行った運動・スポーツ（上位6種目）

第1位	ウォーキング・散歩	42.4%	第3位	バドミントン	6.0%
第2位	水泳	8.0%	第5位	フライングディスク	5.0%
第3位	ボッチャ	6.0%	第6位	マラソン	5.0%



●スポーツを観る際の現状

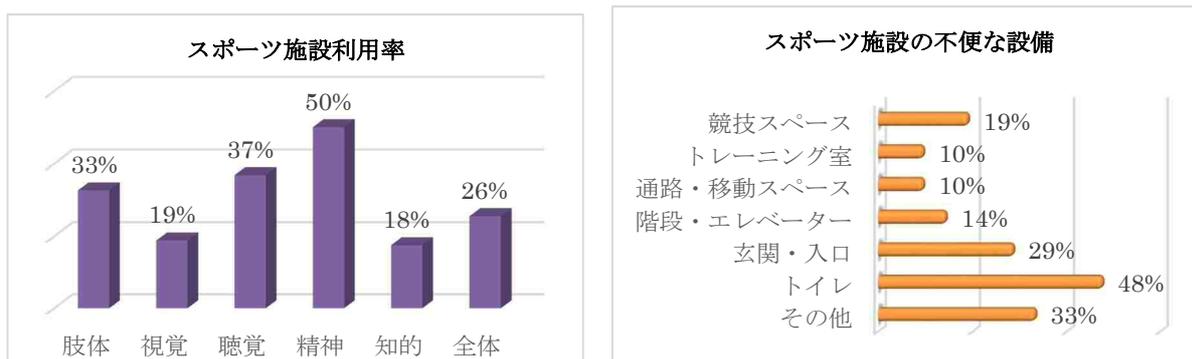
スポーツ観戦率は22%ですが、「機会があればしてみたい」が47%となっており、約8割の人がスポーツ観戦に興味・関心を持っていることがうかがえます。



●スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設を利用したことがあると回答した人は26%になっており、市民全体の利用率より5%多くなっています。

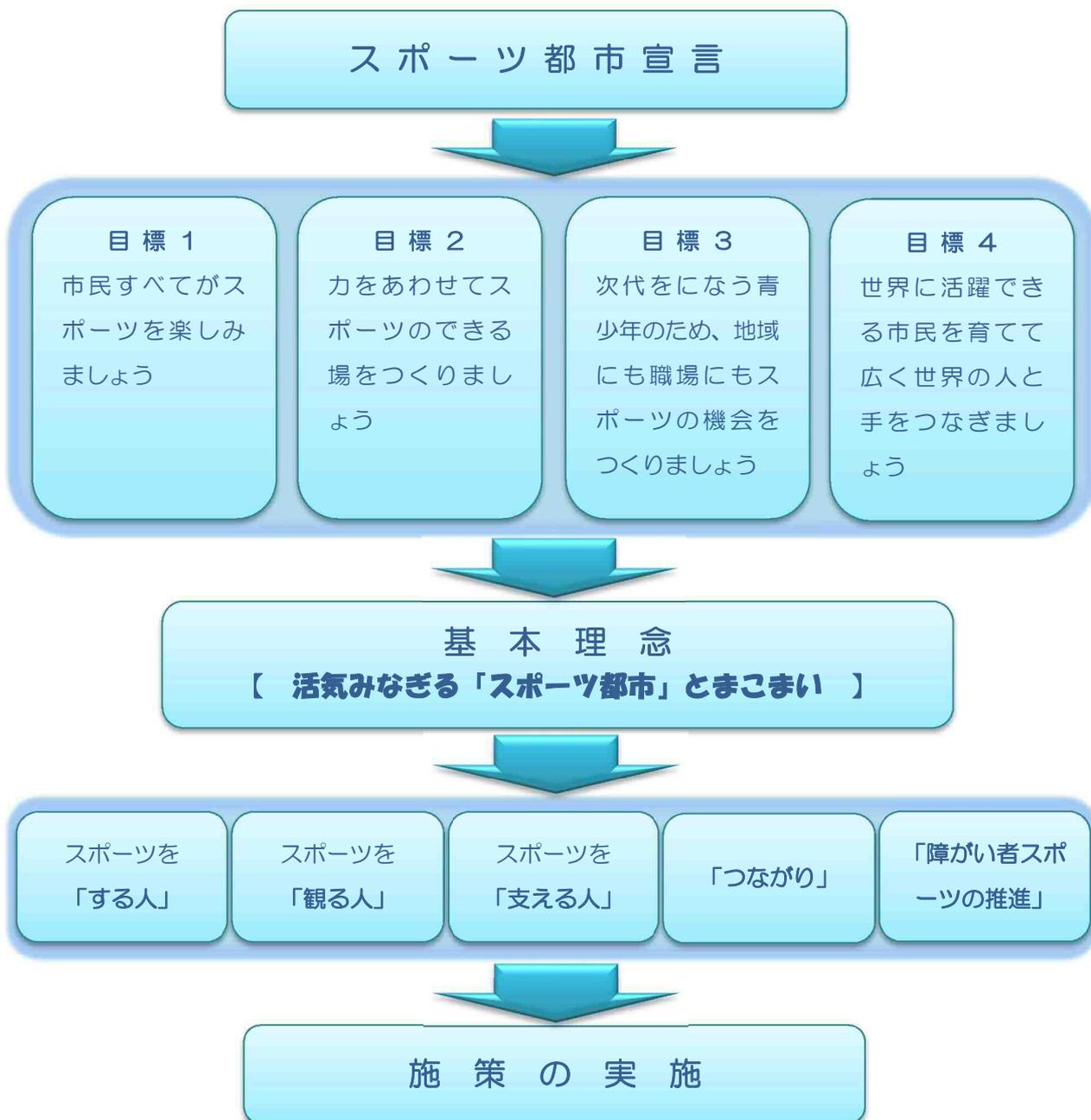
また、スポーツ施設の不便な設備として、「トイレ」、「更衣室」、「玄関・入口」のバリアフリー化を求める意見が多くなっています。



<第3章> 計画の基本的な考え方

1 基本的な考え方

基本の理念として掲げたテーマの「活みなぎるスポーツ都市とまこまい」を実現するために、本市のスポーツを取り巻く環境と課題を踏まえて、「スポーツ都市宣言」に示す4つの柱を目標として掲げて施策を推進していきます。



1 施策の体系

基本理念

活気みなぎる「スポーツ都市」とまごまい
くスポーツを愛し、市民が活気あふれるまちへく

目標1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう

方針 1-1 市民のライフステージやそれぞれの適性等に応じたスポーツ活動を推進します。

方針 1-2 スポーツを観る人・支える人などの参加の拡大を推進します。

目標2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう

方針 2-1 安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます。

方針 2-2 民間のスポーツ事業者等と協力して市民のスポーツ参加を促進します。

目標3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう

方針 3-1 地域や職場等におけるスポーツへの参加機会の創出を推進します。

目標4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう

方針 4-1 競技スポーツを支え世界で活躍する選手を育み応援します。

方針 4-2 スポーツ合宿や大会の誘致を行い、交流や情報発信等の機会をつくります。

目標1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう

方針1-1 市民のライフステージやそれぞれの適性等に応じたスポーツ活動を推進します。

施策① 子どもがスポーツに親しむ機会をひろげます。

主な事業展開

- ・子ども向けの各種スポーツ教室の開催

施策② 高齢者・障がい者がスポーツを楽しむ機会をひろげます。

主な事業展開

- ◎パラスポーツ教室の開催
- ◎パラスポーツ体験会の開催

パラスポーツ教室の開催

障がい者スポーツの普及・振興を図るため、フライングディスク・ボッチャ・車いすバスケットボール・パラアイスホッケー・フロアカーリングの5種目の教室を開催しています。



パラスポーツ体験会の開催

障がいのない方障がい者スポーツの普及・振興を図るため、フライングディスク・ボッチャ・車いすバスケットボール・パラアイスホッケー・フロアカーリングの5種目の教室を開催しています。



施策③ 誰でも気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります。

主な事業展開

- ・市民スポーツ祭の開催
- ・健康ウォーキング事業の実施

方針 1-2 スポーツを観る人・支える人などの参加の拡大を推進します。

施策④ スポーツに関する情報を発信しスポーツへの参加をサポートします。

主な事業展開

- ・スポーツイベントの情報発信

施策⑤ スポーツ観戦の機会をつくり感動や一体感を共有します。

主な事業展開

- ◎トップスポーツチームとの連携事業
- ・プロスポーツチームの試合誘致活動

トップスポーツチームとの連携事業

地元スポーツチームと連携協定を締結し、広報活動や地域貢献活動等の多岐にわたる連携を行っています。



施策⑥ スポーツ指導者やスポーツ推進委員、スポーツボランティアの活躍を推進しスポーツを支える輪をひろげます。

主な事業展開

- ・スポーツボランティアの育成支援
- ・アスリートフードマイスター講習会の開催や推進

目標2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう

方針 2-1 安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます。

施策⑦ スポーツ施設を整備し安全で快適なスポーツ環境をつくります。

主な事業展開

- ・既存施設の効率的・効果的な改修
- ・スポーツ施設の効果的・効率的な運営のための指定管理者による一体管理

方針 2-2 民間のスポーツ事業者等と協力して市民のスポーツ参加を促進します。

施策⑧ 民間スポーツ事業者や各種教育機関と協力し市民のスポーツ参加を促進します。

主な事業展開

- ・スポーツ施設指定管理者の自主事業の充実
- ・民間事業者との連携支援

目標3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう

方針 3-1 地域や職場等におけるスポーツへの参加機会の創出を推進します。

施策⑨ 身近な地域や職場等で青少年がスポーツに参加できる機会をつくります。

主な事業展開

- ・八地区スポーツフェスティバルへの支援
- ・とまこまいマラソン大会の開催

施策⑩ 氷上スポーツへの参加を推進し地域のスポーツ文化として振興します。

主な事業展開

- ・スピードスケート体験教室の開催
- ・スケートエンジョイスクールの開催

目標4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう

方針4-1 競技スポーツを支え世界で活躍する選手を育み応援します。

施策⑪ 競技スポーツの活動を支援し競技力の向上を図ります。

主な事業展開

- ◎国際大会出場者への奨励金の実施
- ・学生が参加する全国・全道大会の遠征費補助

国際大会出場者への奨励金

国際大会に出場する選手の実績を称えるとともに活躍を祈念し、奨励金を贈呈しています。

①オリンピック・パラリンピック	10万円
②トップカテゴリーの世界選手権・ワールドカップ	5万円
③その他の国際大会（高校生以下に限る）	3万円

施策⑫ アスリートを育み応援することでまちの誇りと一体感を醸成します。

主な事業展開

- ◎オリンピック・パラリンピック壮行会とパブリックビューイングの実施
- ◎東京2020オリンピック聖火リレーとパラリンピック聖火採火式の実施

オリンピック・パラリンピック壮行会とパブリックビューイングの実施

本市出身のオリンピック・パラリンピック出場者を応援する壮行会とパブリックビューイングを開催しています。本市出身のアスリートを市民が一体となって応援することで市民のスポーツへの関心を高め、将来のスポーツ人口の増加につなげます。



施策⑬ トップアスリートとふれあう機会をつくれます。

主な事業展開

- ・スポーツマスター事業の充実
- ・連携協定締結チームとの協働事業の推進

方針 4-2 スポーツ合宿や大会の誘致を行い交流や情報発信等の機会をつくれます。

施策⑭ スポーツ合宿の誘致を行い、トップレベルのプレーを学ぶ機会をつくれます。

主な事業展開

- ・スポーツ合宿等助成制度の周知
- ・アイスホッケー競技ナショナルトレーニングセンター（NTC）事業の推進

施策⑮ まちの魅力を発信しスポーツ大会の誘致を行います。

主な事業展開

- ・全国高等学校選抜アイスホッケー大会の開催
- ・全国・全道大会開催に係る運営費の助成支援

3 数値目標の設定

本計画を着実に推進するために、以下の数値目標を設定し、令和7年度までにその目標を達成できるように施策を展開していきます。

基本となる指標は、令和2年4月に行った「苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査」及び「障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査」の数値を使用します。

1 市民の70%が、週1回以上運動を行うことを目指します。

現在の実施率 58.2% ➡ 令和7年度目標 70%

※様々な市民参加型のスポーツイベントを開催し、運動をするきっかけとなる機会をつくり、国のスポーツ基本計画で目標としている3人に2人（65%程度）を参考に、本市の目標値を設定し目標達成を目指します。

2 障がいのある人の65%が、週1回以上運動を行うことを目指します。

現在の実施率 50.9% ➡ 令和7年度目標 70%

※パラスポーツ体験イベントを開催し、運動をするきっかけとなる機会をつくり、国のスポーツ基本計画で目標としている目標値3人に2人（65%程度）の達成を目指します。

3 市民の40%が、市や地域等のスポーツ行事に参加することを指します。

現在の実施率 24.5% ➡ 令和7年度目標 40%

※市や地域等のスポーツイベント情報を広く発信して参加を推進し、他市の目標値も参考にし、本市の目標値を設定し目標達成を目指します。

4 市民の50%が、年1回以上スポーツ施設で観戦することを目指します。

現在の実施率 30.1%  令和7年度目標 50%

※様々なスポーツイベントの開催や、大会等の誘致を推進しスポーツを観る機会をつくり、アンケート調査による「観戦する機会があればしたい」の結果を参考に本市の目標値を設定し目標達成を目指します。

5 市民の20%が、スポーツボランティア活動を行うことを目指します。

現在の実施率 6.6%  令和7年度目標 20%

※市や地域、各スポーツ団体が開催するスポーツイベントのボランティア活動の推進し、アンケート調査による「社会貢献という動機付けがあれば行いたい」の結果を参考に、本市の目標値を設定し目標達成を目指します。

6 本市が「スポーツ都市宣言」を行ったまちであることを、80%の市民に知ってもらうことを目指します。

現在の認知度 37.7%  令和7年度目標 80%

※全国で初めてスポーツ都市宣言を行ったまちであることを、広報紙やホームページ等で広く発信し目標達成を目指します。

7 児童・生徒の75%が、運動やスポーツをすることが好きになることを目指します。

現在の割合 62.6%  平成37年度目標 75%

※令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を参考に数値目標を設定
スポーツ・運動をする、観る機会を提供し、多くの子ども達を楽しめる場をつくり目標達成



苫小牧市スポーツ推進計画（改訂版）

活みなぎる「スポーツ都市」とまこまい

～スポーツを愛し、市民が活気あふれるまちへ～

発行日 令和3年（2021年）6月

発行 苫小牧市

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

電話 0144-34-9601（ダイヤルイン）

FAX 0144-34-7717

E-mail sports@city.tomakomai.hokkaido.jp

企画・編集 苫小牧市総合政策部まちづくり推進室

スポーツ都市推進課
